

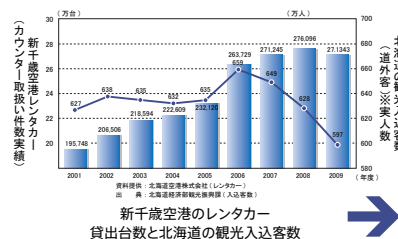
沿道の休憩施設や駐停車空間の 魅力向上に関する研究 (1/2)

寒 地土木研究所 地域景観ユニットでは、ドライブ観光で重要な、「道の駅」や「ビューポイントパーキング」など、沿道の休憩施設の快適な空間づくりを目指して研究を進めています。

背景と目的

背景：北海道観光におけるドライブ観光の重要性

- 観光は北海道の最も重要な産業の一つです。
- 中でも車を運転しての観光（以下、ドライブ観光）が主流となっており、近年増加しています。
- 北海道は長距離移動が多く、移動途中の快適な休憩が求められ、中でも道の駅は重要な立ち寄り施設です。
- しかし現状の道の駅は、立ち寄り施設として休憩場所を十分活かし切れていないところがあります。

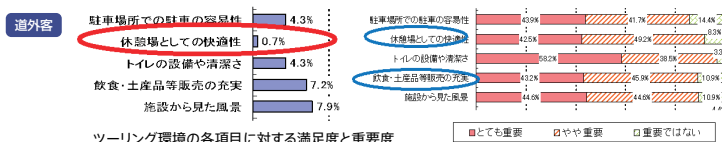


観光入込客数が増加傾向です。
ドライブ観光は増加傾向です。

目的：道の駅の重要性や利用者ニーズ及びその効果を把握するために調査を行いました。

道の駅の休憩に対するニーズと課題

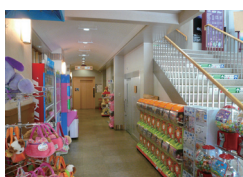
- ・調査方法：当研究所開設のWeb「北の道ナビ」及び現地でのアンケート調査
- ・調査目的：北海道におけるツーリング環境に関するニーズ、課題などの把握・整理
- ・調査時期：平成19年9月～20年1月 ・回答数 n=305



これまでの調査からドライブにおいて道の駅などの「休憩施設」へのニーズが高いです。特に「休憩の快適性」は「物販・飲食」とともに重要性は高くなっています。しかし、ドライブ環境における「休憩場としての快適性」の満足度は低くなっています。

休憩空間の現状

●屋内スペース



自動販売機などが隙間無く並べられ、物販に力を入れた通路

●屋外スペース



殺風景でおもてなしが感じられない屋内休憩所



施設の前の広場が殺風景で、おもてなしが感じられない



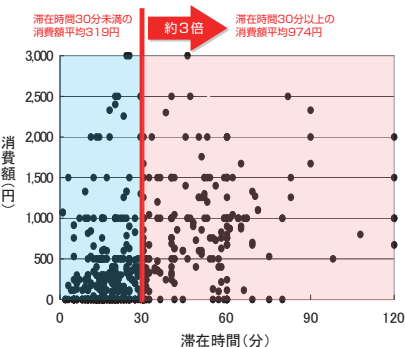
中間領域がなく、賑わいが感じられない

現場調査においても「物販や飲食」に比べ、快適な「休憩」の提供がされていない多くの事例を確認しました。

「滞在時間」と「消費額」の関係

滞在時間と消費額

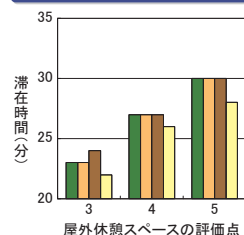
(調査対象8駅全体 調査標本数 n=562)



道内8箇所の道の駅で調査を行い、「滞在時間」と「消費額」の関係を把握しました。「滞在時間」が長いと「消費額」も多い傾向を示しています。

「休憩の魅力」と「滞在時間・消費額」の関係

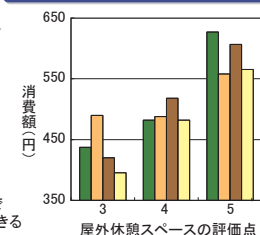
屋外休憩スペースと滞在時間



屋外休憩スペースの評価と滞在時間、消費額
の関係をグラフに表しました。

- 緑陰があり、木陰でゆっくりと休憩ができる
- 野外テーブルやベンチなどが充実している
- 楽しく(快適に)休憩する人でにぎわっている
- 休憩スペースから見える景色が魅力的である

屋外休憩スペースと消費額



屋外休憩スペースの評価が高いと、滞在時間が長くなり消費額も増加しています。さらに、屋内休憩スペースも同様の傾向を示しています。

地域景観ユニットの取り組み



「道の駅」ニセコ



「道の駅」マイオの丘公園

物販などの充実とともに、休憩施設の魅力を高めることは、施設全体の魅力向上に繋がります。それは、利用者の満足度が向上し、にぎわいを創出させます。そして、地域の活力が生まれてくると、地域景観ユニットでは考えています。

そこで、沿道休憩施設および駐停車空間に関して、以下の研究を行っています。

- 具体的な機能と魅力の向上手法の提案
- デザインガイドラインの作成